

## 第13部会

ことになるだろう。

ところで、「身体的な中身の排出」という一連の振る舞いがクリステヴァの言う「ホラー」の様態であるとするならば、クリステヴァがここで参照しているフロイトの恐怖症の観察記録（「症例ハンス」）において、まさしくそのような振る舞いとして五歳児のハンスが「唾を吐く」という行為を強調することに注目して良い。ハンスは、母親のはいていないときの「黄色いパンツ」と「黒いパンツ」に「ペッ！」と言って唾を吐く。フロイトが「排泄物コンプレックス」と指摘するこの行為は、まさしく唾棄物の現前の生きられた現場として再考に値するものであると思われる。ハンスの分析症例において読まれるこうした主体のドラマについての考察は、書かれた唾棄物は感情体験として読みうるのかという問いを私たちに突きつける。これはクリステヴァが「聖なるもの」を書くとする現代文学からそれを読みうるかどうかという問いとまったく同型的なものである。

## 「心理臨床科学」の宗教

——故河合隼雄のへかたり——

戸田 游晏

筆者はこれまで、認定資格「臨床心理士」を中核とする心理療法実践・研究者の最大組織体日本心理臨床学会の動向に、類

宗教事象としての枠づけを試みてきた。

「心理臨床科学」は、「臨床心理士」の職能の根幹となる方法論とされている。

本稿は、心理臨床と宗教との関係の再考を目指し、心理臨床学躍進期の立役者でおそらく日本で最も著名な「臨床心理士」河合隼雄（一九二八—二〇〇七）の著作を読み解く。

河合隼雄は、八〇年代前半から世間の注目を集めはじめ、彼の提唱する「臨床心理学」「心理療法」が広く知られるようになった。八二年に日本臨床心理学会を離脱した河合らは日本心理臨床学会を設立したが、同年に岩波より刊行の『昔話と日本人の心』の第九回大佛次郎賞受賞をはじめ心理療法の有効性を宣伝する大衆への啓蒙はマスメディアを通じ人気を博した。これらの活動が、八九年の「臨床心理士」認定資格化に大いに貢献した。

当時日本にもニューサイエンスの思潮が上陸し、科学の発達と「精神世界」との折り合いに関わる議論も高まっていた。その一方で政府は科学技術立国を謳い、八五年には国際科学技術博覧会が開催された。また、新宗教・新々宗教が、大学という諸科学を教授する機関の中に布教の場を拡げはじめていた。オウム真理教の発祥と展開もこの頃にあたる。

日本心理臨床学会とオウム真理教団の共通項を、敢えて言挙げするなら、心理(学)主義に基づき存立する点と言えよう。

八六年の『宗教と科学の接点』で河合は、「心理療法」は「広義の科学」であり「広義の宗教」でもあると述べる。論文「精神療法の深さ」では、心理臨床は医療領域を侵犯しないよ

う自戒せねばならないが、医学にない独自性を、「悟り」に類した「深い体験をもつ」ことで補うので、「宗教モデル」の治療は心理臨床家に任せて貰いたいと主張する。

これらの中で河合は、宗教に纏い付く「うさんくささ」の除去を試みる。即ち正体を暴かれる前に、予め、脱臭・解毒済みの概念としての「宗教」を自らの立場の現れの一つであると申し立てるのだ。これもまた「臨床の知」を用いた方略であるのかもしれない。巧みな政治家であった河合は、この後の「心理臨床」の大筋をこのように方向付けた。

読み手の感性に配慮し論を誘導する河合の論述には、相手を納得させつつ自らの主張に引き込む手品の巧みさがある。読み手は河合が埋め込む論理の飛躍に気付かない。むしろ河合は、相手の脳裏に根柢無き一定のイメージを植えつけてゆく。掴み取りたいことは名調子の文の行間に沈みこみ、読み手は対象の沈黙の中に限りなく自らを投射する。

「心理療法」は詰まるところ、〈行間〉を読み書きする相互交流の中に在る。この実践の理論への構築は、臨床的勘を錬磨し続ける「終わりなき (Freud)」道だ。これを方法論としての致命的欠陥とみるか、或いは「新しい科学」と主張するか。後者を躊躇うことなく選ばざるを得なかったのが、河合を中心に提唱される「心理臨床科学」であった。

非科学的事象を捨象した「宗教」を自らの存在意義と見做す限り、科学にも宗教にもなりきれない、自助の治癒力さえ疑われる職能組織となってしまう。かのような集団が「心の専門家」なる権勢の虚焦点を標榜し、仮構の〈治療〉能の喧伝を通

して現の地位の獲得に拘泥するとき、自閉・カルト化への道を辿ることがほぼ避け難いのではないだろうか。

心理臨床家が謳う効能の数多は大いに疑わしい。ただし、或る限られた人々は、羊頭(科学)を掲げつつ優れた狗肉を売る。かれらが、居り場のない現状を辟き、なお有効性と独自性を主張して自らの職域と組織体の維持存続を望むとき、おそらくもう進む道は残されてはいない。己の出自を顧み、そこを基点に再び出立の方途を探ることの他には。